

2020 年度事業報告

1. 概要

在 2020 年当中，主要以成立时确立的事业目的为中心，在以下 3 方面展开工作。

2020 年においては、主に設立時に確立された事業目的に則り、次の 3 つコア事業を中心に取り組みました。

①. 与政府机关积极沟通交流，向环境省提供了再生行业企业的诉求与意见。主要包括《塑料出口时，关于巴塞尔条约判定标准》

政府機関と積極的に交流し、環境省に再生事業現場の情報データと意見を提供しました。

「プラスチックの輸出に係るバーゼル法該非判断基準案」に対する意見募集（パブリックコメント）について、

ベール状プラスチックについて、軟質、均質などの条件を限定せず、きちんとしている海外リサイクル工場であれば、輸出基準緩和していただきたいです。

理由について：

- ①. 海外工場を持つ日本企業も多いため、国内で発生した再生プラスチック原料が輸出され、現地生産に使われるケースが多いでしょう。
- ②. 日本では労働力不足の一方、手間賃をかけて仕分けをしてはまったく採算が合いません。
- ③. 簡単な仕分けで利益が出るものがあるので、手間のかかるものはごみとして処分されてしまいます。
- ④. もし厳しい体制でいけば、日本ではプラスチックの焼却量は増え続けていくでしょう。

②. 通过与媒体，行业相关组织交流，提高协会知名度。

メディア、業界関連組織との交流を通じて協会の知名度を高め。

《日経産業新聞》《化学工業日報》《環境経済新聞》《いんたすと・全産連月刊誌》としまして協会の取り組みを発信しました。

工業団地について：

プラスチックリサイクル産業をバージョンアップさせる一つの考えです。共同用の水処理などの設備を設置、高額な初期費用を抑えられます。更に、より高いプランニングとして、GRS(Global Recycled Standard)認証をとり、高品質な再生樹脂が製造でき、かつ大量提供できることで、(排出一処理一再生一消費) 良好なシステムができれば、循環戦略にいい効果を与えられると存じます。

プラ工連・田原市・三井化学・稲葉産業・大王製紙・清水建設などの関連団体、市町村・企業からの問い合わせは増加しました。

③. 走访调研企业，开展支援协助工作。

企業を訪問し、支援協力を取り組みました。

- マスクの共同購買
- 公益財団法人廃棄物・3R研究財団・プラスチックリサイクル高度化設備緊急導入事業・補助金申請のお手伝い
- 中間処理業者を訪問実際に硬質ミクス・小家電などの廃プラ処理に困っていることがわかりました。
- 全国産業資源循環連合会と積極的にコンタクトをとり、賛助会員として入会が承認され、今後深い協業意識を固めました。
- 新規会員の募集について：

常沅産業株式会社・富田日中貿易有限公司・SSJ株式会社・邦築産業有限公司・春海組（その他・10社）

以上